

すゝを人のもとへつかはすに、このすゝは鞍馬の福にて候ぞ、さればとて又むかでめすなよす
すは小竹なり、こゝはその筍をいふなり、こはそなへものならぬをも、其地に産する物は、福とい
ひしなるべし、

〔北越雪譜 二篇 二〕餅花

餅花や夜は鼠がよし野山目にはねすみがとは、其角がれいのはすみなり、江戸などの餅花は、十二
月餅搗の時、もちばなを作り、歳徳の神棚へさゝぐるよし、俳諧の季には冬とす、我國後の餅花
は春なり、正月十四日までを大正月といひ、十五日より二十日までを小正月といふ、是我里俗の
習せなり、さて正月十三、日十四日のうちに、門松しめかざりを取り拂ひ、我國長岡あたりにては、
四日までかくる、餅花を作り、大神宮歳徳の神夷、おのゝ餅花一枝づゝ、神棚へさゝぐ、その作
りやうは、みづ木といふ木、あるひは川楊の枝をとり、これに餅を三角又は梅櫻の花形に切たる
をか、の枝にさし、あるひは團子をもまじふ、これを蚕玉といふ、稻穂又は紙にて作りたる金銭縮
あきびとなどはちゝみのひな形を紙にて作り、農家にては木をけつりて、鋏鋤のたぐひ農具を
小さく作りて、もちばなの枝にかくる、すべておのれゝが家業にあづかるものゝ、ひながたを
掛る、これその業の福をいのるの祝事なり、もちばなを作るはおほかたわかきものゝ、手業なり、
祝ひとて男女ともうちまじりて、聲よく田植歌をうたふ、此こゑをきけば、夏がこひしく、家の上
こす雪のはやくきえよかしとおもふも、雪國の人情なり、此餅花は、俳諧の古き季寄にもいでた
れば、二百年來諸國にもあるは勿論なり、ちかごろ江戸には季によらず、小兒の手遊に作りあき
なふときゝつ、

賀儀用餅

〔塵袋九飲食〕年始ニハ人ゴト餅ヲ賞翫スルハ、何ノ心カアル、餅ハ福ノモノナレバ祝ニ用フル歟、
昔豊後國球珠郡ニヒロキ野ノアル所ニ、大分郡ニスム人ソノ野ニキタリテ、家ツクリ田ツクリ